



人生における健康と趣味



京都料理飲食業国民健康保険組合理事長

堀部 勝也 氏



明治元年、京都・三条寺町の地に創業したそば店「本家田毎（たごと）」の取締役会長である。6代目店主の長男に店を譲ったとはいえ、今も「現役」として店にたつ。

「当初、店を継ぐのはいやだったんですが、修業先の『かんだやぶそば』（東京・神田）で、そばをこちそうになった時、そばって、こんなにうまいもんかとびっくりしました」

「そばつゆ」作りに没頭

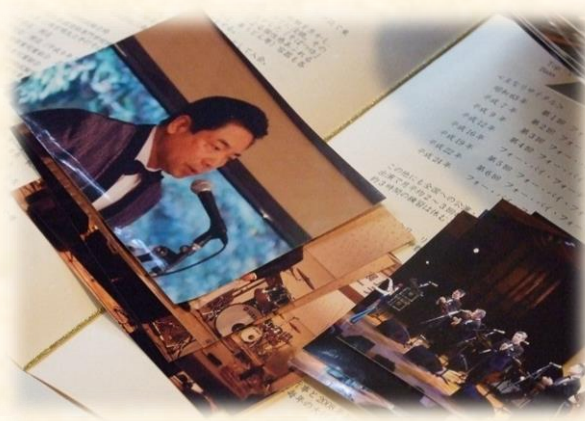
大学卒業後、2年の修業をへて、早速店の改革に取りかかり厨房やメニューを一新。江戸のこしの強いそばと従来の田毎の特徴を生かした「そばつゆ」作りに没頭した。「オヤジら周囲からは大反対を受けましたが、若いこともあり怖いもんなしですわ。それに自信もあり、お

かげさんで評判を呼びました」と、当時を懐かしく振り返った。

その後、店を法人化し、5代目店主として約30年間、社長を務めた。一方で、業界の京都府麺類飲食業生活衛生同業組合の副理事長（後に理事長）の時に、京都麺料理技能士会を設立。そばつゆに対するたゆまない研究など京都のそば文化に貢献したことが認められ、麺料理関係者では初めて京都府の「現代の名工」に選ばれた。

歌声はセミプロ級♪

堀部理事長にはもう一つの顔がある。同志社グリーククラブOBでつくるセミプロ級のコーラスグループ「フォー・バイ・フォー」のベース担当である。リサイタルやライブ、TV・ラジオコマーシャルなどに出演し、その低音ボイスを響かせてきた。今は一時休演中だが月2回の練習は欠かさない。「店のもんは、コーラスの練習は仕事に行かはるんやと理解してくれています」と笑う。「ジャズが主体ですが、演歌でも何でも歌います。おなかから声を出すと、ストレスなんか全部なくなります。そうそう、それが僕の一歩の健康法です」。音楽の話になると、夢中になり子どものようにうれしそうだった。



「健康法といえば、そばには今話題のポリフェノールなど栄養素がたくさん含まれており生活習慣病の予防に効能があります。科学的に証明されてきました」。昼食は毎日そばだという。

最後に「好きな言葉」を聞いてみた。すると「調和」という答えが返ってきた。「英語でいうとハーモニーですわな。また、調和はバランスともいえます。料理で大事なのは味のバランスなんです。人との出会いや縁を大切にし、人生も調和のあるものになりたいですな」。商売やリサイタルで磨いた巧みな話術で、取材を締めくくった。さすがです。